

事後評価報告書

R3年1月20日(水)

研究種別	重点化研究	
研究課題名	密播苗を用いた水稻の省力・低コスト栽培技術の確立	
研究期間	H30年度 ~ R2年度	
	評価項目	評価点
1	研究目標の達成度	3.6
<p>[評価所見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高密度苗非対応田植機(普及機)を用いて乾籾250g/箱まで高密度にした県内主要品種の播種苗を疎植栽培と組み合わせることでその有効性を実用レベルで実証したことは評価できる。また、育苗に用いる箱数も大幅に減少できる見込みとなったことから省力化も現実的となった。本技術を生産現場に普及するためには、この技術を導入した場合の省力時間および経営試算を数値で評価し、そのデータを生産現場に提示する必要があると思われる。 ・計画通り且つ明確に研究成果が示されていた。密播250gでは非対応田植機を利用できるため、広域普及が期待できる。 ・密播での育苗期間内における病害対策をすべきである。普及には慣行との費用的試算を明確にすべきである。大規模法人によるさらなる農地集積、規模拡大は法人の人員キャパによるので可能とまで言えないのでは。省力・低コスト栽培技術の確立をするならドローン活用もあるのではないか。 ・労力の削減に期待できる。 ・収量が変わらずに育苗箱の枚数を減らせるので、労力特に体への負担軽減になるのは非常に魅力で良いと思う。 		

事後評価報告書

R3年1月20日(水)

研究種別	重点化研究	
研究課題名	スイートコーンの生産拡大に向けた新作型の開発	
研究期間	H29年度～R2年度（H29：県単、H30～R2：重点化）	
	評価項目	評価点
1	研究目標の達成度	3.8
<p>[評価所見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県主力作物であるスイートコーンの収益性を向上させるため、秋期出荷を目途とした新たな栽培作型を平坦地と高冷地でそれぞれ開発し、従来の出荷時期を約2ヶ月延長できる技術を開発したことは評価できる。定植時の機械化の有効性も確認されたことから実用技術としての可能性も見えてきた。この新作型を積極的に生産現地に普及するためにも、労力も含めた費用対効果を検証する必要がある。 ・計画通りに有効な成果があげられていた。特に高冷地で非常に良い成果がでていた。しかし、成果の示し方についてはしっかりと根拠のあるデータも示して結論を導くようお願いしたいです。施肥管理の部分は、平坦地ではLP40とLP200をそれぞれN20kgで混合し基肥として施用すればいいということでしょうか？10ページの下スライド中のグラフは緑バーが対照区で合っていますでしょうか？ ・早急に栽培技術を開発し、平坦地から高冷地に掛けて出荷リレー出来る体制を確立し、県・全農・農協を交えて普及してほしい。県下の農協で現地実証を実践すべき。 ・作期の拡大に期待できる。 ・8月中旬播種で作ったときに台風で倒伏したことがあるので倒伏軽減効果が重要でそれにより晩秋収穫のスイートコーンが作付けできるのは期待できる。 		

事後評価報告書

R3年1月20日(水)

研究種別	重点化研究	
研究課題名	トマトの茎葉残さ処理を組み合わせた土壌還元消毒技術の確立	
研究期間	H30年度 ~ R2年度	
	評価項目	評価点
1	研究目標の達成度	3.4
<p>[評価所見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物として生産者の負担になっている栽培後のトマト茎葉残渣を土壌還元消毒技術の資材として利活用するアイデアは省力化や経費削減に繋がることから評価できる。現時点までに得られた主要成果は、現地での作業実証とコナジラミおよび線虫の発生調査以外、多くは枠圍場含めた場内試験で実施されたものである。本課題は、この技術の利用時に病害虫防除や施肥管理を円滑に実施するための基盤的情報を収集したものである。現地での実用化を想定し、トマト産地で発生する主要土壌病害虫防除および一作を通じた肥培管理の栽培全体をカバーする技術体系を視野に入れて確立する必要がある。土壌還元消毒技術が適応できる時期が初夏～盛夏に限られることから、県内のトマト産地の作型と照らし、本技術の導入が可能と見込まれる産地を想定した実用技術となるよう開発を継続する必要がある。 ・計画通りに実施されていた。黄化葉巻病ウイルスを対象としているのではなく、媒介昆虫を対象としているので、スライドの表記を訂正したほうが良い。6ページ上のスライド中に記載の検出率については、評価方法として適切でしょうか？菌数も記した方が良い気がしますが、検出されないことも目的としているのでしょうか？それとも発病に結びつかない菌数までの低減でしょうか。還元消毒で使用するふすま中の肥料成分を考慮した試験はとても重要だと思います。減肥に繋がるよう広く周知していただけたらと思います。 ・現場では、茎葉残さ処理が不完全(半生)で持ち出しがあるので周知の徹底を望む。 ・農家のできない研究の普及が期待できる。 ・米ぬかは前から色々いわれてましたが、トマト疫病に効果があることが解り、米ぬかは低コストで利用できるのでは色々応用できる結果だったと思います。 		

事後評価報告書

R3年1月20日(水)

研究種別	県単	
研究課題名	高冷地における夏秋パプリカの生産安定技術の確立	
研究期間	H30年度 ~ R2年度	
	評価項目	評価点
1	研究目標の達成度	3.6
<p>[評価所見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・換金性の高いパプリカを県内で産地化するための品種選定および栽培体系の開発で、出荷競争で優位性ある時期を見据えた産地形成を目途とした課題である。県内のナス科果菜類の栽培体系を参考に植栽密度、仕立て方法および整枝方法等も基準が示されたことから、即戦力の栽培作物として生産に相応しい地域に導入可能であろう。産地形成を具体的に始める前に、平均的農家をモデルにして「20cm 株間・2本仕立て」での経営収支を調査しておく必要があると思われる。 ・計画通りに実施されていた。有益な情報が多く含まれており、県内のパプリカ生産に多いに役立つと思います。本技術が広く普及することを期待します。 ・取組み課題としてはよいと思う。受益農家を施設野菜農家と位置付けないで広く普及対処にしてはどうですか。 ・山梨県の高冷地農家のパプリカ栽培技術の確立に期待できる。 ・直売でも結構売れる品種なので簡易雨よけ施設で栽培できるのは経営の安定化につながるの、パプリカ栽培に期待できる内容です。 		